

浜中康子 ピアノ教育におけるリズム感の育成 ―古典舞踏を用いて―

【昭和五十九年度】

大川満希子 幼児の歌唱指導法に関する一研究 ―年長児の指導を通して―

浜松敦子 近代日本における民衆の洋楽受容に関する一考察

―音楽教育史研究としての試み―

佐野 靖 西ドイツの音楽教員養成制度に関する考察 ―ノル

トライン・ヴェストファーレン州を中心に―

【昭和六十年年度】

松嶋直美 ピアノ教育における技術指導について ―「御木本方式」の分析を通して―

磯田貴子 導入期のピアノ指導に関する一考察 ―レディネスに着目した実践を通して―

佐藤邦子 自閉症児の音楽教育に関する研究 ―ピアノ指導を通して―

【昭和六十二年年度】

渡辺加津子 リズムの本質とその教育における一考察 ―打楽器アンサンブルを通して―

【昭和六十二年年度】

岩田遵子 幼児の音声表現におけるパターンの意味 ―言語的表現と歌唱的表現―

宮和田美保 音楽科教育の時間論的一考察 ―教科の独自性の探求として―

亀丸孝子 地域社会における音楽と学校 ―五木村における現地調査を通して―

博士論文題目および博士後期課程

リサیتال一覧

博音第一号、音楽学

蒲生美津子 (論文) 早歌の音楽的研究 昭和五七・三・二五

博音第二号、邦楽

安藤正照 (論文) 箏と十七弦における撥弦動作の時間的解析 (演奏) 「越天楽変奏曲」「落葉の踊」「残月」 昭和五七・三・二五

博士後期課程リサیتال

昭和五十二年 一月二十日 十六時 第六ホール

手事 第一章 手事 宮城道雄 作曲

第二章 組歌風

第三章 輪舌

箏 安藤正照

磯千鳥 (三弦) 菊岡検校 (箏) 八重崎検校 作曲

三弦 安藤正照
箏 牧瀬裕理子

昭和五十三年度

残月 峰崎匂當

組歌「扇の曲」 八橋檢校

昭和五十四年度 昭和五十五年一月十一日(金) 十五時 奏楽堂

御山獅子 菊岡檢校 作曲

水の変態 宮城道雄 作曲 伴奏 牧瀬裕理子

博音第三号、ピアノ

岡田敦子 (論文) 「スクリヤービンの和声語法」…後期作品に

おける和声領域連結システムを中心として

(演奏) スクリヤービン作曲 詩曲 嬰へ短調

作品三二の一 他

昭和六二・一・五

博士後期課程リサイタル

昭和五十五年 昭和五十六年四月十七日(金) 第六ホール

十一時開演

スクリヤービン 詩曲 作品三二一

練習曲 作品八一・一二

ソナタ 第九番 黒ミサ 作品六八

ソナタ 第五番 作品五三
ソナタ 第六番 作品六二
ひなぎく 作品三八・三

前奏曲 作品三二二、作品三二五、

作品三二三

昭和五十六年度

シヨパン マズルカ 第一一番 作品一七・二 ホ短調

第一七番 作品二四・四 変ロ短調

第三三番 作品三三・二 ニ長調

第三五番 作品五六・三 ハ短調

第三八番 作品五九・三 嬰へ短調

第四九番 作品六八・四 へ短調

スクリヤービン

マズルカ 第七番 作品三三・七 ホ短調

第二番 作品三二・二 嬰へ短調

第六番 作品三一・六 嬰ハ短調

第十二番 作品二五・二 ハ長調

第一五番 作品二五・五 嬰ハ短調

第二〇番 作品四〇・一 変ニ長調

第二一番 作品四〇・二 嬰へ長調

スクリヤービン ソナタ 第七番「白ミサ」 作品六四

スクリヤービン ソナタ 第一〇番 作品七〇

昭和五十七年度

スクリヤービン ピアノソナタ 第一番 作品六

ピアノソナタ 第八番 作品六六

一二の練習曲 作品八

昭和五十八年度

スクリヤービン ピアノ協奏曲 嬰へ短調

東京芸術大学管弦学部オーケストラ

指揮 佐藤功太郎 助教授

博音第四号、声楽

青山恵子 (論文)「日本歌曲に於ける歌唱法の実践的研究」..

伝統音楽との接点・その考察と実践論

(演奏) AIYAN の歌 (全五曲)

北原白秋 詩、山田耕柞 曲 他

昭和六二・二・二二

博士後期課程リサイタル

昭和五十四年度 昭和五十五年二月二十六日 (火) 第六ホール

十三時半

一 AIYAN の歌 一 NOSKAI 山田耕柞

二 かきつばた

三 AIYAN の歌

四 曼珠沙華

二 三つの小唄

五 気まぐれ
一 春の鳥 團 伊玖磨

二 石竹

三 彼岸花

三 ソメコとオニ

松本民之助

伴奏 前島あや子

四

一 六騎

平井澄子

二 涙

三 あいびき

四 枯野

五 牡丹

伴奏 新宮順子、本間尋子、川合留美、横田孝志

昭和五十五年度

一 幽韻 (全五曲)

小倉百人一首より 山田耕柞 作曲

二 お六娘

林 柳波 作詞 橋本国彦 作曲

三 牡丹

北原白秋 作詩 橋本国彦 作曲

四 中世風な三つの歌

田植草紙より 増本喜久子 作曲

あわれ

はやしことば

しててん

五 尾花沢

柳原白蓮 作詞 牧野由多可 作曲

六 蛙よ

萩原朔太郎 作詞 牧野由多可 作曲

七 お染さん

柳原白蓮 作詞 牧野由多可 作曲

伴奏 ピアノ 前島あや子 尺八 横田孝志
箏 上条妙子 三絃 村田章子 十七絃 野沢波留美

昭和五十九年度 二月二十六日(火) 第六ホール

幽韻 小倉百人一首より

山田耕柞 曲 増本伎共子 編曲

日本の笛 北原白秋 詩 深井史郎 曲

城が島の雨 北原白秋 詩 橋本国彦 曲

舞 深尾須磨子 詩 橋本国彦 曲

モノオペラ

安達ヶ原の鬼女 瀬川拓男 作 菅野浩和 曲

ピアノ 前島 あや子

賛助出演

フルート 中川昌三 尺八 古屋輝夫 三絃 矢崎明子

箏 坂井敏子 十七絃 菊地悌子

博音第五号、声楽

樋本由美(藍川) (論文) 演奏家としての立場における山田

耕柞歌曲の楽譜に関する研究

(演奏) 歌曲集「幽韻」 他

昭和六二・三・二五

博士後期課程リサیتال

昭和五十六年度 一九八二年二月二十三日 十三時 第六ホール

一 風に寄せて歌える春の歌 (二九二〇)

三木露風

I 青き臥床をわれ飾る

II 君がため織る綾錦

III 光に願い日に舞える

IV たたえよ しらべよ

二 母のこえ (二九二七)

大木惇夫

みぞれに寄する愛の歌 (二九四七)

薔薇の花に心をこめて (二九五八)

三 幽韻

I 花のいろは (二九一九)

小野小町

II 忘らるる (二九一九)

右 近

III あらざらむ (二九一九)

和泉式部

IV 玉の緒よ (二九一九)

式子内親王

V わが袖は (二九二二)

二條院讀岐

四 六騎(ロッキュ) (二九二二)

北原白秋

蟹味噌(ガネミソ) (二九二二)

鐘が鳴ります (二九二三)

五 AIYAN の歌 (二九二二)

北原白秋

I NOSKAI

II かきつばた

III AIYAN の歌

IV 曼珠沙華

V 気まぐれ

一九八二年度(二年次) 一九八三年二月十八日(金) 十四時

第六ホール

―橋本國彦の歌曲による―

独唱 藍川由美

ピアノ 塚田佳男

フルート 中務晴之

作品六一 一 薔 (一九二八) 詩 深尾須磨子

二 斑猫 (一九二八)

三 笛吹き女 (一九二八)

北原白秋の詩による小品

牡丹 (一九二五)

なやましき晩夏の日に(一九二五)

薔の花 (一九二八)

舞 (一九二九) 詩 深尾須磨子

―六代目菊五郎の娘道成寺によせて―

一九八三年度(三年次) 一九八四年二月十七日 十五時

第六ホール

伊福部昭 「アイヌの叙事詩に依る対話体牧歌」(一九五六)

歌 藍川由美 ティンパニ 松倉利之

早坂文雄 「春天の詩に拠る四つの無伴奏の歌」(一九四四)

より うぐいす 歌 藍川由美

清瀬保二 「猫」「なめいし」「公園の熊の子」(一九三〇)

團伊玖磨 「五つの断章」(一九四六)

畑中良輔 「三つの叙情歌」(一九四七)

中田喜直 「こんなに気の滅入る夕方」(一九六一)

「鴉」(一九六二)

歌 藍川由美 ピアノ 塚田佳男

博音第六号、弦楽器

伊藤恵以子(山本) (論文) J・S・バッハ「無伴奏チェロ組

曲」に関する研究…演奏・楽譜等の歴史的

状況について

(演奏) J・S・バッハ「チェロ組曲第一

番」他

昭和六二・一一・二

博士後期課程リサイタル

昭和五十五年度

バッハ 無伴奏組曲 六番

ブラームス チェロソナタ 二番

ピアノ 中川佳寿子

一九八二年二月十九日(金) 十四時半

J・S・Bach 無伴奏チェロ組曲第三番 C-dur BWV100

九

C・Franck チェロソナタ A-dur

ピアノ 堀 由紀子

昭和五十九年度 一九八五年二月十四日（木） 十三時～

第六ホール

J. S. Bach 無伴奏チェロ組曲第二番 d・mol BWV 100

〇八

M. Reger 無伴奏チェロ組曲第二番 d・mol 作品131

F. Chopin チェロソナタ g・mol 作品65

ピアノ 江端津也子